

# 成果報告書

申請者氏名	櫻井 純子	所属・職位	健康マネジメント研究科 後期博士課程 2年
活動名称	へき地保健師活動における課題抽出と解決策の検討		
<b>活動結果の概要</b> <p>様々な地理的、気候的条件など異なる背景を持つ小規模自治体に勤務する保健師特有の課題を抽出することを目的に、以下の活動を実施した。</p> <p>開催日時：平成 30 年 6 月 2 日（日）10:00～17:00 開催場所：島嶼会館（東京都港区海岸 1 丁目 4-15） 参加者：16 名 実施内容： 10:00-13:00 発表者との打ち合わせ 13:00-13:30 会場設営 13:30-14:20 NPO 法人設立総会実施 NPO 法人へき地保健師協会にかかる設立趣旨、定款、会費、設立初年度及び翌年度の事業計画書及び活動予算書、役員選任などについて説明し、全議案について満場一致で承認された。 14:30-17:00 研修会実施 第 1 部では、長野県王滝村保健師美濃羽冨子氏による事例発表を行った。テーマは「1 人体制の自治体保健師の活動体験のわからあい」であった。第 2 部では、意見交換を実施した。意見交換の目的は、へき地で暮らす住民の健康保持・増進のため、へき地に関わる保健師が互いに顔の見える関係を作り、へき地における保健師活動の課題の明確化、課題の解決、活力の充実にすることとした。意見交換はワールドカフェ方式で行い、問いを①思い描く理想的なへき地の保健活動、②理想に近づくためのつながりかた・つながることで実現できること、とした。ワールドカフェによる意見交換を踏まえ全体討議を行い、へき地における保健師活動で直面した課題及び解決策を共有した。</p>			
<b>成果</b> <p>第 2 部での意見交換及び全体討議の結果から、以下の通り、へき地保健師が直面している課題の抽出と解決策の検討を行うことが出来た。なお、成果については、第 77 回日本公衆衛生学会自由集会「へき地保健師のつどい」にて発表予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>へき地保健師が直面している課題の抽出と解決策の検討<ol style="list-style-type: none"><li>へき地住民への直接的支援を担う専門職との連携・協働体制の構築と、教育的支援の必要性 複数の離島を抱える自治体では保健師は本庁に配置され各離島には配置されていないなど、保健師の配置によっては必ずしも保健師がへき地にいるとは限らないことが把握できた。そのような自治体では、診療所看護師等現地にいる専門職がへき地住民に関わっており、保健師は離れた場所から計画立案を行うなど間接的な働きかけを行っていた。保健師がへき地にいない体制であってもいかにへき地住民の健康を守るか、住民に直接かかわる専門職と離れた場所にいる保健師がいかに連携・協働していくかが課題であることが抽出された。解決策としては、特に地域アセスメント、ニーズ明確化、緊急時の対応の検討などが求められていたことから、現場での活動を担う専門職の専門性や実践能力に応じた教育の必要性が検討された。</li><li>へき地での保健師体制が 1 名であってもチームで活動を展開できる仕組みづくりの必要性 保健師定数が 1 名のへき地自治体があったほか、行政区域の一部がへき地である自治体では、複数の保健師がいてもへき地に配置される保健師は 1 名であったことなどから、へき地では保健師は一人体制で活動している状況が少なくないことが把握できた。また、新任保健師がへき地に配置される自治体もあり、保健師は活動の評価が困難であることや自身の成長に自信が持てずに不安を感じていることが把握できた。これらから、保健師体制が 1 名であってもいかによりよい地域看護活動を展開するかという課題が抽出された。解決策としては、他保健師の活動方法を見て学ぶ機会の確保、活動内容を知って</li></ol></li></ol>			

もらい活動の評価を他保健師と行える仕組みづくり、重要な判断を保健師一人に任せるのではなくチームで行える仕組みづくりなどが検討された。

### 3) へき地保健師活動の共有とアセスメントやニーズを軸とした引継ぎの明文化の必要性

へき地保健師の退職や異動に伴い引継ぎが必要となるが、へき地保健師は少数配置であることから、交代時に活動の質をいかに維持するかという課題が抽出された。この課題に対して、住民全員を熟知していると思っていたが、引継ぎを意識しリストにしてみたところ分からないこともあり、住民に聞き取り調査を行うことで地域に埋もれていたニーズに気付けたこと、これを次の人に引き継げるよう書面に残しているという活動報告がなされた。また、同じ自治体内保健師でもへき地に配置されていない保健師の間ではへき地での保健師活動をよく知らない者も少なくなく、活動の難しさを分かち合えない状況があることが把握できた。これらから、解決策としては、へき地保健師活動の同僚保健師との共有、住民とのコミュニケーションの取りやすさを活かした全数把握によるニーズの明確化、保健師活動の意図と根拠となるアセスメントやニーズを書面に示すことが検討された。

### 4) ICT の発展や看護師の役割拡大など社会資源の変化に応じて住民の終末期に対する新しい価値観をつくる必要性

へき地では医療や福祉資源の種類や量は不足しているが、自宅での看取り率については地域により差がある。自宅での看取り件数が減ると、最期を自宅で迎えるイメージができない人も増え、住民だけでなく関係者でも「最期を自宅で迎えられる」と思えなくなりつつある地域もあったことが把握できた。

一方で、ICT を使用した遠隔医療や連携体制の構築が進んでいることや、看護師の役割拡大もなされてきていることから、へき地を取り巻く医療福祉社会資源は変化しつつあり、将来的には大きく変わる可能性もある。当たり前だった社会資源が変わることで、看取りに向けて新しい価値観を創造できるチャンスでもある等の意見交換がなされた。

### 5) 被災に備えへき地保健師の受援力を高めておく必要性

へき地では社会資源や人的資源が乏しく、災害時には外部支援を要することが想定される。へき地が被災地となった場合、地域を把握している保健師が少ないことで保健師間の役割分担が機能しない可能性があるなど受援力の乏しさ等について意見交換がなされた。また、現在被災地で活動している保健師から現状についての報告がなされた。これらから、へき地保健師が災害時にいかに必要な支援を受けるかという課題が抽出された。この課題に対して、平時から地元関係者や自治体職員との関係づくりをししておく等の解決策が検討された。

## 2. 今後の研究や教育に向けた示唆

保健師活動に影響するへき地特性には、離島や山間地といった地理的特性があると仮定していたが、へき地保健師活動における課題の抽出とその解決策の検討を通して、地理的特性のみが保健師活動に影響するのではなく、その地理的特性から生じる、人口減少や人口密度、分布といった人口的特性と、地域内社会資源の種類や数、地域外社会資源へのアクセスしやすさといった社会資源的特性と、行政的特性が大きく影響していることについて示唆を得ることができた。そのうち行政的特性は、区域的側面、配置的側面、支援関係的側面の3つの側面が含まれると整理できた。区域的側面は、自治体の全域がへき地なのか一部なのかといった行政区域とへき地との関係である。配置的側面は、保健師自身がへき地に配置されるか、本庁配属で担当地区にへき地が含まれるといった保健師配置とへき地との関係である。支援関係的側面は、保健師が直接へき地住民に関わるのか、へき地に赴くことが困難で直接的関わりは診療所看護師など現地に配置されている専門職が行っているかといったへき地住民への支援関係である。

以上の成果を得ることができた。これらの成果は、へき地保健師活動に関する研究や教育を進める上で、対象へき地の把握及び対象選定、へき地保健師活動の類型化等に活用していく。

湘南藤沢学会より各地から参加した方の旅費、会場費、印刷・郵送費の補助をいただき、盛会となったことに感謝申し上げます。